



60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
<p>大江山 いくのの道の 遠ければ</p> <p>おおえやま いくののみのちのと おければ</p>	<p>やすらわで 寝なましものを 小夜ふけて</p> <p>やすらわで ねなましものを さよふけて</p>	<p>有馬山 猪名の 笹原 風吹けば</p> <p>ありまやま いなの さきはら かぜふけば</p>	<p>めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に</p> <p>めぐりあいて みしやそれとも わかぬ間に</p>	<p>あらざらん このよのほかのおもいでに</p> <p>あらざらん このよのほかのおもいでに</p>	<p>滝の音は 絶えて 久しく なりぬれど</p> <p>たきのおとは たえて ひさしく なりぬれど</p>	<p>忘れじの 行く末までは かたければ</p> <p>わすれじの ゆくすえまでは かたければ</p>	<p>嘆きつつ ひとり 寝る夜の 明くる間は</p> <p>なげきつつ ひとり ぬるよの あくるまは</p>	<p>明けぬれば 暮るるものとは 知りながら</p> <p>あけぬれば くるるものとは しりながら</p>	<p>かくとだに えやは伊吹の さしも草</p> <p>かくとだに えやは いぶきの さしもぐさ</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>まだふみもみず 天の橋立</p> <p>まだふみもみず あまのはしだて</p>	<p>かたぶくまでの 月を見しかな</p> <p>かたぶくまでの つきを見しかな</p>	<p>いでそよ人を 忘れやはする</p> <p>いでそよひとを わすれやはする</p>	<p>雲隠れにし 夜半の月かな</p> <p>くもがくれにし よわのつきかな</p>	<p>いまひとたびの 逢ふこともがな</p> <p>いまひとたびの あうこともがな</p>	<p>名こそ流れて なほ聞こえけれ</p> <p>なこそながれて なおきこえけれ</p>	<p>けふを限りの 命ともがな</p> <p>きょうをかぎりの いのちともがな</p>	<p>いかにひさしきものとかは知る</p> <p>いかにひさしきものとかは 知る</p>	<p>なほ恨めしき 朝ぼらけかな</p> <p>なほ 恨めしき 朝ぼらけかな</p>	<p>さしも知らじな 燃ゆる思ひを</p> <p>さしも 知らじな 燃ゆる 思ひを</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>小式部内侍</p> <p>こしきぶの ないし</p>	<p>赤染衛門</p> <p>あかぞめ えもん</p>	<p>大式三位</p> <p>だいにの きんみ</p>	<p>紫式部</p> <p>むらさき しきぶ</p>	<p>和泉式部</p> <p>いずみ しきぶ</p>	<p>大納言公任</p> <p>だいなごん きんとう</p>	<p>儀同三司母</p> <p>ぎどうさんし のはは</p>	<p>右大将道綱母</p> <p>うだいしやうみちつな のはは</p>	<p>藤原道信朝臣</p> <p>ふじわらの みちのぶ あそん</p>	<p>藤原実方朝臣</p> <p>ふじわらの さねかた あそん</p>	番号	上の句	下の句	作者